

## 城下町探訪 4 3

2010/1/28

ぜんきゆういん

## 全久院跡 (廢寺とされた戸田氏の菩提寺)

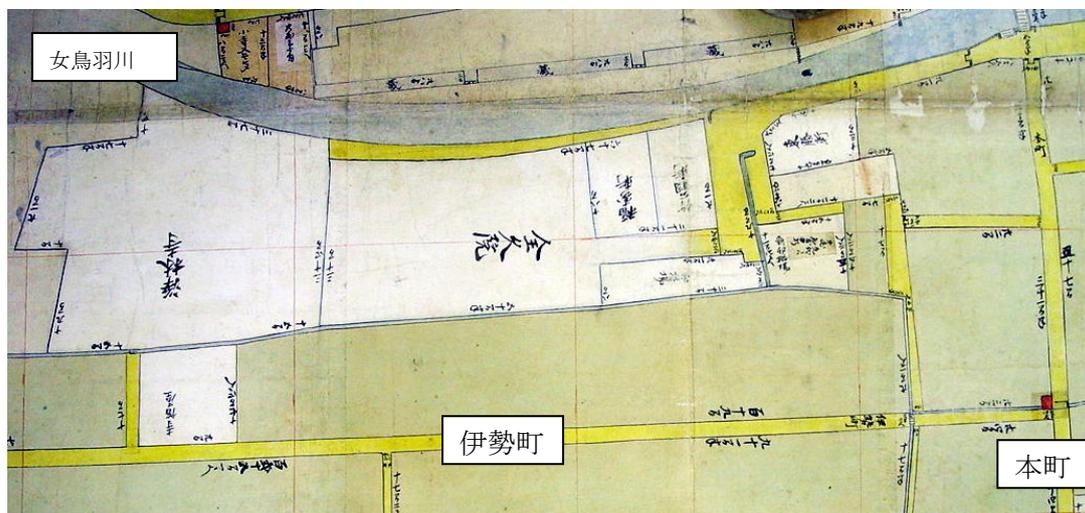
千歳橋下流の女鳥羽川左岸に明治9年に建てられた擬洋風の開智学校が昭和38年から解体移築保存修理工事が施され大字桐へ移転した(昭和39年8月竣工・40年4月より公開)このことは周知のことである。それ以前、明治6年にはこの地に廢仏毀釈によって廢寺とされた全久院の建物を使用し開智学校が開校されていた。この仙壽山全久院は松本城主戸田氏の菩提寺であった。

### 1. 全久院と戸田氏

元和3年(1617)戸田康長は高崎から松本に7万石で入封した。菩提寺である全久院(曹洞宗)も松本に移ってきた。この時は中町の法華宗の本立寺(現在伊織霊水のあるところ)が元和3年小笠原氏の明石移封によりこれに従って去ったので無住であった。ここに全久院を置いた。しかし、旧本立寺檀徒はここには法華宗の寺を置いてほしいと愁訴したため寛永3年(1626)下横田町(恵光院の所)にあった妙光寺をここに移し、全久院を下横田町に移した。両寺を置き換えたのである。全久院と妙光寺は寛永10年戸田氏の明石転封と共に明石に移っていった。(※妙光寺跡には越前大野から松平直政に従って来た天倫院が入り、寛永15年また、直政従って松江へ去った。この跡を檀徒が本立寺として再興した。)



享保11年再び松本に入封した戸田氏は、女鳥羽川左岸の水野氏の春了寺が改易で廢されたので、そこに全久院を置いた。福寿軒・東勝軒・竹翁軒の塔頭があった。



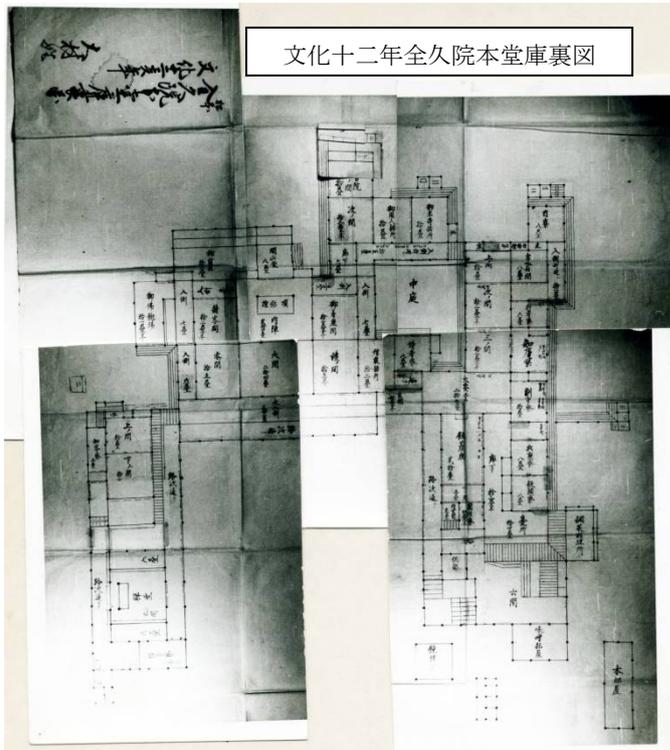
二十二世（再興二世）是妙不伝和尚は松本叢林開闢の祖である。叢林とは禅家至高の学府のことで全国に九ヶ所あり全久院はそのひとつであって全国から修行僧が来ていた。

## 2 全久院の規模

前次ページ絵図のように、全久院への入り口は大手橋を渡り右折して女鳥羽川岸を西進すると全久院の寺域に入っている。享保13年の絵図では東勝軒・竹翁軒・福寿軒の塔頭を確認出来る。本堂・庫裡等は50間と30間の敷地の中に建っていたものと推定される。

文化12年の「全久院本堂庫裏図」によれば山門（赤門）を入るとコ字型に建物が配置されており正面が本堂で、大間・須弥壇のある内陣・開山堂・御霊堂・客間・僧衆詰所・侍者寮・書院等があり、方丈居間・行者寮・内寮が中庭を挟んで右奥にある。藩役人関係の部屋では御年寄詰所・御用人詰所等が見える。およそ256.5坪(中庭18.25坪含)である。

左側は禅堂及び付属施設で建坪75.25坪である。右側は庫裏で玄関・台所・典座寮・飯頭寮・飯台座・味噌部屋・調菜料理書所等があり、およそ104.5坪 味噌部屋の右



に10坪の木部屋があり、庫裏玄関の手前に鐘楼堂が配置されていた。建坪は本堂・庫裏・禅堂を合計するとおよそ436.25坪である。

安永5年（1776）12月中町綿屋火事により全久院山門（赤門）を残して焼失。西隣の浄林寺も焼失した。天明3年（1783）3月裏小路から出た火により全久院が焼失している。文化5年（1808）4月本町生坂屋物置より出火、天明再建の善美を尽くした全久院客殿・庫裡・禅堂・衆寮・鐘楼残らず灰燼となり、僅かに山門と塔頭三寺を残すのみであった。

文化12年（1815）の「松本全久院本堂庫裡図」が残されておりこれ迄には再建がなされたものと思われる。

安政6年（1859）7月25日の水害において全久院伊勢町側の護岸（左岸）が小破して、慶応元年（1865）2月には、博労町山城屋から出火し燃え広がり本町一丁目まで焼き尽くしたが生安寺と全久院は危うく難を免れた。

## 3、全久院開堂の賑わい

全久院は戸田家の菩提寺で戸田家の葬儀や法事が営まれている。禅宗寺院では新命住持（新任住持）が就任する儀式を開堂と呼ぶ。新任住持は法堂（はつとう）において法座に登

り今上皇帝聖寿の万歳を祝し次いで、自分が何人の法をうけ継いだかを公衆の面前で表明し、次いで来賓・諸役の人々に謝辞を述べ、大衆に対して最初の説法をする。この一連の儀式を「開堂」という。文化2年（1805）全久院開堂の警備の記録が残されている。『4月2日「全久院開堂」ということで松本藩の固め役人12名が警備する中、近郷近在から参詣の人々が群集し境内は勿論、堂の上迄も夥しく人々が入り込んだ。場所がふさがり勤めの式が出来かねる状態になった。そこで、警備の役人が棒で制したところ、近在の半六というものがその棒にとりついて法外な事を口走ったので役人が棒で打ったところ、頭から出血した。半六はますますいろいろな事を口走るの、彼に縄を打つべきか、詰めていゝ上役に警備の責任者が伺いを立てたところ「なるたけ事静かにとり鎮めるように」との指示だった。そうこうしているうちに半六は鐘堂の辺まで退いていったのでそのままにしておいた。』とある。

このように開堂の時には、一般の人々の参詣が許されたことがわかる。

#### 4 廃仏毀釈と全久院

明治3年から4年にかけて吹き荒れた松本藩の廃仏毀釈は藩主自ら範を示すべく埋橋の戸田家廟墓を守る前山寺を廃棄し、また五社（現松本神社）にあった弥勒院を廃している。さらに戸田家菩提寺全久院を廃寺とした。全久院三十四世（再興十三世）巨海意龍和尚は古来からの由緒を説いて愁訴したがその功なくその間に破却の督促が迫って来たのでやむなく、三河国全久院に合併、什宝書類すべて引き継ぎ、三河国全久院住持金牛大和尚へ法脈を引き渡し、重宝本尊と開基像を負って越後出雲崎に難を逃れた。そして出雲崎に仙壽院全久院を興し寺は現在に存続している。

松本藩は意龍和尚が去ったあと、人々を大手門前に集め、全久院にあった戸田氏歴代の位牌を女鳥羽川に投じ、山なす仏像や金光絢爛たる仏具に火を掛けた。人々はこれを見て悄然としたと伝えられている。（※旧松本市史は恵龍和尚と記しているが、『信州松本青龍山全久院史・松本城主戸田様の歴史』（全久院発行）により意龍和尚とした）

松本藩がなぜこれまでに神仏分離令を徹底して廃仏毀釈を全国的に見ても激しく行った理由について「図説国宝松本城 中川治雄著」は松本藩は国学が盛んであったからとする説があるが、譜代大名であった藩主戸田光則が率先して神道に改宗したのは「朝廷への忠義の誠を示したものであろう。」とされている。

#### 5 その後、全久院跡は開智学校に

明治4年（1871）松本藩は全久院廃寺跡（建物は残されていた）に藩立の病院を創立し西洋医学による治療を開始した。廃藩置県後松本県は全久院跡の病院を上土町に移し県立松本病院と改称した。明治5年廃寺となった全久院に5月5日筑摩県学が開校した。明治6年全久院跡の筑摩県学が廃止され4月10日「第三大学区筑摩県管内第一番仮小学」と改められたが、5月6日開智学校として開校式が行われた。そして、明治9年（187

6) 全久院跡に擬洋風の開智学校が建築され4月22日開校式が行われたのである。

## 6 越後出雲崎 仙壽山全久院（曹洞宗）の復興

さて、出雲崎に難を逃れた意龍和尚の全久院復興について松本市深志三の「青龍山全久院」が2002年6月1日発行した「信州松本 青龍山全久院史・松本城戸田様の歴史 倉科俊勝著」から要約して紹介させていただきます。

明治4年、越後の出雲崎に難を逃れた意龍和尚は羽黒町の裏山、妙廣庵という禅宗の庵寺の住職となり、その伴妙音尼と二人で羽黒神社裏の屋敷に住んでいた。この妙廣庵は天文5年（1536）全久院二世光国和尚が出雲崎に創立した寺院であり、その縁を頼って妙廣庵に落ち着いたのである。庵寺を全久院と当時呼んだこともあったがその後、二人は出雲崎井之鼻へ行き明治10年認可を得て、仙壽山全久院を建立し出雲崎井之鼻全久院一世となった。この時土地の佐藤一族の厚い援助によってこの全久院は建てられた。注目すべきことは、殿堂造営寄附名簿には信州松本とはっきり分かる24筆の個人及び寺名を確認出来ることである。越後出雲崎に去った意龍和尚・妙音尼・全久院へ思いを馳せる松本の人々がいたことを物語っている。意龍和尚は明治19年6月19日に逝去され、妙音尼は再び妙廣庵に帰り庵主となっている。現在も出雲崎の全久院は良寛堂近くに存続し、仏具（松本全久院の名あり）、大般若六百巻の箱一部（、表紙裏に信陽府松本城仙壽院全久禅院 什具と記されている）等が蔵されている。

## 7 松本の「青龍山全久院（宮村町）」（曹洞宗 総持寺末寺）

最後に、松本深志3の同名の全久院との関係について述べてみたい。

松本藩の廃仏毀釈に対して抵抗した松本正行寺佐々木了綱和尚は余りにも有名である。禅宗寺院大町大沢寺の快竜和尚や大町靈松寺安達達淳和尚もまた松本藩に抵抗し寺を廃寺から守った。安達達淳和尚は廃仏毀釈がおさまった後、松本藩の廃仏毀釈で廃寺となった寺の復興を宿願とした。「旧松本市史 下」より同名の全久院がなった経過を掲げる。

廃寺となった松本瑞松寺が一時師範学校に使われていたがその跡を達淳和尚は寄付金を募って筑摩県より購入し、共有台と名付けて集会所とし、次いで曹洞宗の中教院を置き、明治10年再興を出願したが許されず、11年11月、靈松寺の末寺大町青柳寺を瑞松寺跡に移した。しかし明治29年3月火災で焼けてしまった。安達達淳和尚は檀徒に説いて再建を企て明治29年に起工し明治33年に竣工した。その間明治31年に寺号を「青柳山（現在は青龍山）全久院」とした。その訳は前述のように**仙壽山全久院は禅寺の叢林で全国に聞こえていたので、これを復古しようという考えからであった**。再興第一世は梅崖奕堂和尚でこの方は仙壽山全久院三十二世雲生洞門のころ仙壽山全久院の典座和尚として修行した方であった。※典座（てんぞ）禅寺で床座や粥などの食事のをつかさどる役僧のこと

※安達達淳和尚の奔走で再興された寺院は「東筑摩郡・松本市・塩尻市誌第三巻現代下」によれば「青龍山全久院・長福寺（会染）・長谷寺（神城）・自性庵（烏川）・金松寺（梓）真光寺（三郷）竜昌寺（鎌田）・徳運寺（入山辺）・生安寺（松本）・源長寺（南小谷）である。 終